

## 平成29年白老町議会総務文教常任委員会協議会会議録

平成29年 4月27日（木曜日）

開 会 午後 3時05分

閉 会 午後 4時06分

---

### ○会議に付した事件

1. 西いぶり広域連合ごみ焼却施設共同整備について
- 

### ○出席議員（7名）

|     |           |      |           |
|-----|-----------|------|-----------|
| 委員長 | 小 西 秀 延 君 | 副委員長 | 及 川 保 君   |
| 委員  | 前 田 博 之 君 | 委員   | 大 淵 紀 夫 君 |
| 委員  | 吉 田 和 子 君 | 委員   | 吉 谷 一 孝 君 |
| 委員  | 西 田 祐 子 君 |      |           |

---

### ○欠席議員（なし）

---

### ○説明のため出席した者の職氏名

|         |           |
|---------|-----------|
| 生活環境課長  | 山 本 康 正 君 |
| 生活環境課主幹 | 後藤田 久 雄 君 |
| 生活環境課主任 | 合 田 静 恵 君 |

---

### ○職務のため出席した事務局職員

|       |           |
|-------|-----------|
| 事務局 長 | 高 橋 裕 明 君 |
| 主 査   | 増 田 宏 仁 君 |

---

## ◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより、総務文教常任委員会協議会を開催いたします。

（午後 3時05分）

---

○委員長（小西秀延君） 本日の協議事項は、西いぶり広域連合ごみ焼却施設共同整備についてであります。

担当課からの説明を求めます。

山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 今回、西いぶり広域連合とのごみ処焼却施設の共同整備について、説明するお時間をいただきましてありがとうございます。

本来でありますと、事前に資料を配布させていただきかかったのですが、ぎりぎりまで数字のほう動いておりました、当日の配布になったことをご詫言申し上げます。

それでは、私のほうからお手元の資料に基づきまして、説明のほうをさせていただきます。

資料1をご覧くださいと思います。(1)といたしまして、3月の協議とこれまでの経緯ということで、3月27日に開催されました総務文教常任委員会後に動きがありました件についてご説明申し上げたいと思います。3月27日開催の総務文教常任委員会の中でも、3月30日に西いぶり広域連合の副市長会議が開催され、そこで経費負担の算定基礎となる広域連合の負担金が決定される予定と説明を申し上げておりましたが、諸事情により中止になりました。それで、広域連合の負担金の決定というのが4月19日の西いぶり広域連合の市町長会議に持ち越しということになりました。4月19日の市町長会議の中で合意に至ったのは、白老町を含む7市町全てにメリットが出ることを前提に負担金の見直しを行おうということで決定をしております。ですから、負担金額の決定というのはなされておらず、西いぶり広域連合ですとか登別市と、今本町は協議を重ねて負担金額を決定しているところでございます。

それに基づきまして、本町のほうであらためて試算等を行う形になりますので、当初4月中には登別市、白老町において答申案を策定する予定でございましたが、5月中旬にずれ込むのではないかと考えております。

今後のスケジュールということで、その下に(案)ということで記載させていただいております。4月25日から本日まで、登別市のほうで住民説明会というものが行われております。これにつきましては新聞等でも報道されておりますが、メルトタワーに行くことについて、賛成される意見というのはなかなかなく、反対の意見が多数を占めているという状況で聞いております。5月中旬には方針(案)の作成、議会への説明、6月には方針の決定をしたいというふうに考えております。

西いぶり広域処理に決定した場合については、6月に議会において共同整備への参加表明をさせていただいて、9月の議会で規約変更の議決、それから29年度から西いぶり広域連合の負担金が発生しますので補正予算、その後規約変更の法定協議書の締結をしたいというふうに考えています。実は、このスケジュールは最短で今考えているものが説明申し上げましたスケジュールになります。括弧書きで書いております方針(案)で議会への説明6月下旬、方針の決定8月というふう

てございますが、これについては、なかなか今スケジュールが、先ほど申し上げましたが市町長会議で白老町を含む7市町にメリットが出るように負担金を協議していきましようということになって金額もまだ決定していないものですから、最短のスケジュールどおりにいくかというのが難しい状況にあるかと思えます。それで、ぎりぎりまで伸ばした場合、いつまでに決定すればいいかということになりますと、8月に方針決定をすれば間に合うという形になってございます。なぜこのように急ぐのかという部分でございますが、来年度以降、平成30年度以降計画等を、もし西いぶり広域連合に加入した場合については、メルトタワーの建設に向けて計画等をつくっていくのですが、その前に地域計画というものをつくることとなります。それが、今年度の1月までに提出しなければ環境省の補助金、来年度以降計画を作成する補助金をもらえないということがあるものですから1月をタイムリミット、地域計画をつくらなければいけないので、その発注を7月までにしなければいけないということですので、基本的には6月に決定をすれば一番いいと。ただ、8月になっても、とりあえず5市町で発注をして、その後登別市と白老町の1市1町が参加すると決めた場合でも、何とか間に合うのが8月ということになるものですから、8月が平成37年からメルトタワーを稼働させるためには、そういったスケジュールでいかなければならないということでこのような厳しいスケジュールでございますが、このスケジュールの中で動いているということでございます。

次の資料に参ります。(2) 共同整備の比較と経費試算についてということで、別紙の資料2-1と2-2で説明させていただきます。2-1は総括表になってございますので、後ほどご説明させていただきます。

まず、資料2-2をごらんいただければと思います。こちらが本町で試算をした内容でございます。先ほど申し上げましたが、負担金額がまだ確定がしておりませんので、現時点での西いぶり広域連合からきている数字を入れまして、うちのほうのごみ収集の経費がどれくらいあがるかといったものを計算した中で出していて、確定はしておりませんが今の試算ということで考えていただければと思います。表が2つ上下でございますが、上の表からご説明します。これは、平成37年に西いぶり広域連合、メルトタワーに移行した場合、完全に移るとする場合の計算になってございます。一番上に年度が書いてございますが、平成29年から36年、この8年間については、当然ながらメルトタワーまだ稼働しておりませんので、クリンクルセンターで実際にごみ処理を行うということになります。それで、一番上のほうにごみ収集経費とありますが、これは可燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみとありますが、おおむね6,900万円、7,000万円くらいの可燃ごみについては経費負担になるという試算をしております。それから、資源ごみについては2,200万円から2,700万円程度の経費負担ということになります。それから、粗大ごみについては160万円程度の金額で推移するというので、おおむね収集経費の全体としては9,200万円から9,800万円、1億円を切る金額で推移するものと考えてございます。

このほか、登別市の負担金というのが真ん中くらいに書いてございますが、運営経費等がかかってまいりますので、これについてはいろいろ合わせまして1億7,800万円から2億円程度の金額が毎年かかってくる、ちょっとデコボコしておりますがそれくらいの経費がかかってくるということで、まず白老でごみ収集にかかる経費、それから登別市に対し払う負担金、もう一つは実は西いぶり広域連合に対しても負担金というのが発生してきます。平成29年から平成33年までについては、計画

を策定するコンサルタントに委託する委託料ですとか、そういったものがかかったり、議会費とか総務費、それから職員の給与、そういったものがかかってきます。それから、平成34年からは建設費といったものがかかってくることになりまして、こちらは最大でいきますと平成36年に1億4,000万円ほどかかる計算で西いぶり広域連合から今きている数字ですので、これについては本町としても平成36年に経費が一気にかかるものですから、平準化等についてもこれから要望していかなければいけないと考えておりますが、現段階の数字では1億4,000万円ほど、建設費が平成36年にかかってくるということになります。それでいきますと、全体として平成29年から36年はクリンクルセンターとメルタワーの両方に負担金が発生することになりますが、総体として、経費としては27億7,270万2,000円ほどこの8年間でかかる金額となっております。

それから、平成37年から51年につきましては15年間になりますが、大きく変わる部分につきましては、ごみ収集経費が変わってきます。単純に平成36年と平成37年の可燃ごみ、それから資源ごみを比べますと2.2倍。距離が延びるということで2.2倍の経費を見込んでおります。この内容については、もともとごみ収集車を2倍にしないと、今クリンクルセンターに1日に2回行っておりますが、距離が延びますので1日1回しか行けないということになりますので、今の収集の体制を維持するためには収集車を倍にしなければ難しいということになりますので、車を運転する方、ごみをそこで収集する方のその辺の人件費等もふまえますと2.2倍ということになりますので、平成37年であっても、可燃ごみについても1億6,000万円ほどかかってくるということになります。そういった推移の下、計算をしております。

同じく資源ごみについても2.2倍の計算でコンテナ回収をする経費ですけれども、こちらもやはり同じように2.2倍の経費を見込んでおります。それから、先ほどご説明しましたが、分別委託料ですとか、排出方法変更、中継受入費というのが平成32年度から出てきておりますが、分別委託料というのは、収集の費用ではなくてコンテナを設置する費用になります。事前にコンテナをごみステーションのほうへ置かなければいけないということが出てきますので、その部分の経費を見込んでおります。排出方法変更の部分で50万円とか、100万円とかというのがあります。これはコンテナを買って設置する費用を見込んでおります。平成48年にも200万円とか、平成58年に200万円計上しておりますが、コンテナを買い替えなければいけないというのがありますので、こういったコンテナを買う費用を計上しております。

中継受入費というのは、平成37年から年間350万円ほど見ておりますが、これについては、もしメルタワーに行った場合、距離が遠くなりますので環境衛生センターに直接搬入される事業者さん等がふえるというふうに想定しますので、そういった部分で環境衛生センターのほうで対応する人間をふやさなければならぬのではないかとということもありますので、その人件費を見ているという状況でございます。

そういう部分を平成37年メルタワーが稼働してから大きく費用としてみななければいけないということになりますし、基本的には登別市の負担金というのはかかっても運営経費はかかってきませんが、中間改修の起債の償還だけが平成37年から平成41年まで年間800万円ほど残ると。これは起債の償還を平成41年までしていかなければいけないということで、計上させていただいております。

西いぶり広域連合の負担金に関しましては、当然、維持管理の経費がかかってきますし、引き続

き建設費の負担金が平成51年まで、こちらは建設費の負担金をかなりデコボコした形で支払うようになっておりますが、支払っていかねばいけないということです。

あと、先ほどご説明した議会費等もかかってくると。それからリサイクルプラザの運営経費、こちら資源ごみのリサイクルを進めている、処理をするところですけども、そちらの経費ですとか、ペトトルというところの運営経費をみななければいけないということで考えております。この15年間の総額としては、49億8,113万9,000円が全体としてかかってくるといふふうに考えております。

最後、平成52年から平成61年までの10年間に關してですが、こちら基本的に先ほど申し上げた内容のとおり、ごみ収集運搬経費等は特に大きく変更はございません。ただ、当然登別市の負担金等もかかってきませんし、基本的には先ほどの15年間を継続した形で運営していくという形になります。西いぶり広域連合からの負担金というのが、今示されておられませんので、本町としては試算を出すために、平成51年からの数字を継続した形で試算を入れておりますので、多少変動はある可能性はありますけれども、基本的にはこの数字で試算を今回させていただいております。

その総額としては、28億525万1,000円というふうになります。こちらがメルトタワーに完全移行した場合の金額になります。

それから、下の表、登別市との広域処理、今までどおりこちらは登別市と1市1町でやる場合になります。こちらについては平成29年から平成36年の8年間につきましては、今までどおりといたしますから大きく変わるところはございません。特に内容等変更することはありませんので、登別市に対して負担金を払いつつ、当然ごみ収集運搬経費も今のほぼ推移ですけども、ある程度の人件費のベースアップ分とかも見ながらも委託して支払っていくということになるかと思っております。こちらの経費については、実際にこの8年間では24億3,760万4,000円ということになります。

次、平成37年から平成51年までにつきましても、基本的には変わらない形になりますが、ただ、こちらは施設を平成52年に建設するという計画した場合、やはり建設するためには計画、実施計画とつくらなければいけないということになりますので、新施設の建設費というのが平成44年からかかってくるということになります。平成44年から250万円とか、190万円とかということにかかってくるので、こちらの分の支払いが平成43年までとは違ってくるかなと、ここの部分の負担がふえてくるということになります。それで平成52年に新たにクリンクルセンターを建て替えるということでこちらのほうは試算をしてございます。こちらの15年間の経費としては48億7,437万2,000円ということで考えてございます。平成52年から平成61年までの10年間の登別市との共同処理に關していいますと、こちらは先ほど申し上げたとおり、平成50年から新施設を建て替えた場合の起債の償還が始まりますので、これも引き続き平成52年から平成66年までということで起債の償還がされていくということで、こちら新施設の起債償還額のところに2億2,000万円とありますが、実際に平成66年まで払うと3億3,000万円ほど全体としては支払うことになるかと考えております。

先ほどのご説明で抜けてしまったのですが、建設費の比較ということでいきますと、メルトタワーのほう全体として、7市町でやった場合235億円ほどかかりますが、白老町の負担としては上の表の建設費というところの一番右側の数字を見ていただければ、10億円負担をすると、23億円のうち10億円負担するという形になります。登別市がクリンクルセンターをつくる場合50億円ということで想定していて、先ほどご説明しましたがけれども建設費が1億1,500万円ほど、起債の償還が全部

で3億3,000万円ほどありますので、全体で4億4,000万円くらい全体で負担をするということになり、やはり1市1町でつくることになりますので、全体の経費の割合としては1市1町でつくった場合大きくなっていくという考えでございます。

最終的に、平成52年から平成61年の登別市とやった場合の負担総額というのは30億1,909万9,000円という形になります。

これで試算をして、資料2-1に戻っていただきたいのですが、総額で全てご説明いたしましたのが、実際にまず、表の一番上のところには、①として西いぶり広域連合（メルトタワー）に移行した場合の金額が、平成29年から先ほどいいました最初の8年とそのあとの15年、そのあと10年という形で金額を入れておりますが、移行した場合、平成29年から平成61年までの金額できますと、いくらかかるかと申しますと105億5,909万2,000円となります。

それから、②登別（クリンクルセンター）で継続した場合、この33年間を足した場合には103億3,107万4,000円ということになります。ということで差額としては2億2,801万7,000円という形になります。基本的にはメルトタワーに移行した場合よりもクリンクルセンターで継続した場合のほうが2億2,800万円ほど安くなるということで、西いぶり広域連合に参加した場合はそれだけ負担増になるという試算になってございます。

ただ、当初に説明させていただきましたが、負担金がまだ確定がしておりません。ですので、あくまでもこれはメルトタワーに移行した場合白老町としては2億円ほど負担増になると試算しておりますが、大きく変動する西いぶり広域連合の負担金が、それぞれメリットが出るようにしようということで市町長会議のほうで話し合われておりますので、その結果で大きく変わる可能性がありますので、逆転してメルトタワーに行きますと負担が軽減されるということも想定されるということですので、あくまでも現時点の試算ということで考慮いただければと考えております。以上で説明のほうは終わらせていただきます。

○委員長（小西秀延君） 担当課からの説明が終わりましたが、この件について質疑のあります委員はどうぞ。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 今言える範囲があるのかもしれないけれど、負担金の協議をしているというのは、例えば搬送費での平準化を図るだとか、それから、それに代わるものを何か考えるだとか、それは白老町のように遠隔地の場合はそこもメリットが出るようにということの議論だというふう

に受けとめていいのですか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） おっしゃるとおり、先ほどご説明したように、本町の場合ごみ収集運搬経費がほかと違って際立って距離が長くなるということで、収集運搬経費が増大しているというのがネックになっているということになります。ただ、今までも豊浦町さんとか、洞爺湖町さんとか、ごみ収集運搬経費をそれぞれで負担しております、西いぶり広域連合では全くみてもらっていないという状況ですので、例えば白老町が入ったことで、それをみんなで按分してごみ収集運搬経費をみてもらいましょうということにはならないのかなと思っています。ですので、何か方策といいますか、負担金をどのような形で軽減していただけるかというようなところが今後の協議

の焦点になってくるかと思しますので、ごみ集運搬経費についてはそれぞれの町が負担をすると、それ以外の負担金の軽減で何とかメリットを出すということ、これから協議をしていくことになるかと思ひます。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） それは十分理解できるのです。僕が今いっているのは何かというと、ごみ収集運搬経費が白老町でいえば一番のデメリットになるわけですから、それを直接、豊浦町だとかいろいろあるわけだから、直接やらないにしてもそこを基準にして物事を考えるのか、要するに見合い分です。見合い分で負担を平準化させると、基本的にそういう考え方で町は臨むのですかということを知きたいのです。そうでなければ何も基準がなくて何の基準もなくてみんながメリット出るようにやろうといっても、何も基準がなければいけないわけだから、その根拠を白老町としてはどこに置くと考えているかというあたりを知りたいのです。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 基本的には、白老町としてはごみ収集運搬経費の上った分を見てもらえれば、一番それはベストな形だと思いますが、なかなかそこはかなりの経費といひますか、上った分全部見ていただけるというのはなかなか難しいと思ひます。間違いなく白老町と登別市が入ることで5市町にはメリットが出てくると思ひますので、そのメリットをどのように再配分するか。登別市と白老町を入れて7市町の中でどうやって分けるかというところが今後の話し合いの、協議の中心になってくると思ひますので、それぞれのメリットが同じような割合になるように、本町としては、本町だけがメリットが少なくてもかが多いとかではなくて、メリットは同様に分かち合えるような形で考えていただくということが、本町としての今の方針になるかと思ひます。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） ということは、ごみ収集運搬経費のデメリットは全く無視して、今までやっている5市町のメリットの部分を平準化するという考えですね。そこで、平準化して利益が出た市町から新しく加入する部分にそこが振り分けられるというような、平たく言うとそういうような考え方でいいですか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） やはり、ごみ収集運搬経費は西いぶり広域連合としても負担金とは基本的には別物と考えているというふうに認識しておりますので、あくまでも、今委員がおっしゃったように、メリットが出る部分を何とか7市町で享受できる部分を享受させながらメリットを平準化して、参入しやすいような形に持っていこうというのが4月19日の市町長会議の結果ですので、方針に基づいて今後協議は行われると。白老町についても登別市と西いぶり広域連合と協議をしていきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 5市町で得られるメリットの総金額というのは出ていますか。大体でもいいです。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 今数字としていくらというのは、本町も実際に本町と登別市が入

ったことによっていくらメリットが出るのだというところの要求はしているのですけれども、明確に西いぶり広域連合からこういう形でというところは示されておりませんので、何とも金額的にいくらくらいというのを本町からお示しするというのはなかなか。今後の協議の中で恐らくそういった全体としていくらメリットが出る、それでそれを再配分するということは考えていかないと、当然メリットの平準化ということにはなりませんので、全体としてはそういう数字は今後の協議の中で話し合われていくものと考えております。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑をお持ちの方はありますか。いらっしゃいませんか。

西田委員

○委員（西田祐子君） 先ほどの説明の中で、登別市の住民説明会が4月25日から27日となっていて、白老町としては議会の説明はするというふうになっているのですけれども、本日委員会でもしているのですけれども、町民説明というか白老町の意見の取りまとめというのはどういった形を考えていらっしゃるのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 方針（案）の作成というのが、最短で5月中旬ということで考えておりますので、その後、議会の皆様へはご説明をしたいと考えております。それから、住民説明に関して言いますと、そこはどのような形でご説明するかというところは、今検討しているところでございます。例えば案をそこでお示しする形をとって住民説明をするかどうかということも含めて、今検討をしているところでございまして、いずれにしても議会等にご説明した中のご意見を聞いたりとか、この案件については環境審議会に基本的には諮問して答申をいただくということになってきますので、あと廃棄物審議会のほうにもこの案件についてはかけなければいけないというところがありますので、いつどういう形で住民説明会をさせていただくかというところはまだ明確に申し上げられない、どういう形でやるかというのを町としても検討しているというところでございます。

○委員長（小西秀延君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） この問題は、白老町だけで単独で参加するとかしないかということを決められる問題ではないので、登別市との共同でやっている中で、登別市の考えもずいぶん左右される部分なのかと思うので、非常に難しいだろう、担当課としては大変だろうと思いつつ聞いていたのですけれども、ただ、一昨日の町内会長の会議でも、この問題については一切触れていなかったような気がしたものですから、町民の方々にはしてみたらバイオマスのもので感情的に懲っているわけです。いまさら持ち出すのも失礼なのですが、懲っているものだから、この問題についてまたやるということになって、すごくみんなも心が閉鎖されているというか、なんというかどうしていいかわからないですごく悩むのではないかと思います。

私自身も、いい話なのか何なのかさっぱりという気持ちですごく大きいのです。そこで、やはり住民説明をするときに、登別市や西いぶり広域連合の方々ときちっと綿密な連絡を取ったうえで、いかに町がこれからのごみ政策をしていくかということをしきりと説明していただきたいのです。

もう一つ考え方としては、我々はもう年だからとりあえず何とかなるのならいいのではないかと。この次のことは先送りして考えてほしいと、私何人かの高齢の方からそういう声も聞いたのです。気持ちもわからないわけでもないし、その辺含めてのきちとした方針の作成とか、住民説明をき



つちと丁寧にしていただければありがたいかと思うのです。その辺のお考えをお願いします。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 委員おっしゃるように、今回のこの案件については町民の方にとっても今後のごみ処理を左右する生活に密着した大変重要な事項だと考えておりますので、ただ、おっしゃるように登別市の意向というのが大きく影響するというのもありますので、登別市とは密接に連絡を取りながら、協議をしながら進めていきたいと考えておりますし、住民の方についても、しっかりとそういった情報発信はしていきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 2点ほどお聞きしますが、この資料で数字はある程度理解していますが、大きな面で今後どうあるべきかについて今議論されていますからこれはいいです。

それで、資料でいけば平成61年ですから25年間稼働をみているのです。この後もあると思うのです。そこで、現実に耐用年数とか償却年数、平成61年までに25年間ありますから、機械の更新時期、登別市もそうだったように何年か後にはそういうものが出てくる。そういう問題がこの平成61年までの間に考えられているのかどうか。

それともう1点は、将来的なごみのあり方について議論されていますが、それは別にして、当面、今うちは非常に財政が厳しいのです。財政健全化プログラムをやっているのですが、それはみていませんが、資料の2-1で見るとこの平成36年までいけば8年間です。年間4,200万円の負担増になるのです。今までの議論を踏まえていかに負担額を少なくするか。当然この中には収集分も入っているけれど、それは分からないというから記載できないのだけれど、総合的にいっても減るかどうかわかりませんが、4,200万円、平成51年までいけば年間900万円前後ずっとふえます。トータル的には理解します。そういう部分について財政に大きな影響を及ぼすのだけれど、これは登別市との関係も出てくるのだけれど、その辺についての町としての立場が、理事者も含めてどのような、この4月何日に市町長会議を開いているのだけれど、その中で問題提起しているのか。そして今、山本生活環境課長のほうでも、これらの部分についての議論をされているのかどうか。この2点。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 委員おっしゃるとおり、メルトタワーの耐用年数の関係でございますが、基本的にはメルトタワーにも確認はしております。例えば平成37年から供用開始して平成52年以降中間改修だとか全くみていないけれどもかからないのかというところは確認していますが、「かからない。」というところの返答はいただいております。西いぶり広域連合としてはそれはみななくてもいいということで確認を取っておりますので、本町としましてはそこは入れないで試算のほうをしております。平成52年以降の、平成37年から15年間稼働して、平成52年からの10年間についても中間改修といいますか、耐用年数が来てある程度改修が必要なところの話も、西いぶり広域連合としては特に改修の必要はないということで、今そういった費用は計上しておりません。

それと、財政負担については財政とも話はさせていただいておりますし、当然理事者等にも資料のほうは確認しながら、説明しながら、財政負担については平成36年までの間でもふえるというところは承知していただいております。それで、いろいろな費用がかかってくる、病院然り、象徴空間然り、いろいろ経費がかかってくるというところは十分認識しておりますし、本町としても先ほ

ど申し上げましたが、建設費が平成36年に一度にかかってくるようなところがありますので、そういったところを平準化して、単年度に負担が、しわ寄せがこないような形にできないかというのは西いぶり広域連合との協議になるかと思えます。やはり、ごみ処理を安定的に行っていくため、例えば西いぶり広域連合に参入するという事になった場合は、財政のほうとしてもかかるものはどうしてもかかってしまうというところがありますので、言い方がなかなか難しいのですが、この分はみてほかのところで経費の削減を図っていく以外、ごみ処理にかかる部分についてはどうしても確保しなければいけないという認識でおりますので、そういった西いぶり広域連合との少しでも負担が下がるような形で考えて協議はしていきますし、正直申しあげて登別市と一緒にやっていくのか、西いぶり広域連合に入るのかまだ決まっておきませんので、どちらの形でお話すればいいのかちょっと悩ましいところではありますけれども、いずれにしても財政に少しでも負担が少ない形で、西いぶり広域連合、登別市とは協議を進めていきたいというふうに考えております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 委員会協議会だから、財政的なところはまた別な機会にします。

1点だけ確認しておきますけれども、今言われたように、この中間でのメルトタワーの保守点検、機械の更新の経費はかからないとこのように言っていますけれども、実際にここを運営しているのは一部事務組合になります。そうすると、経理も多分複式とかになってくるから、今言ったように耐用年数、更新時期、その部分について落としていかなければだめだから、一部事務組合は財政的に厳しくなってくると思えます。今は一緒になりたいからそのようにいっているのだけれど、現実に町からも一部事務組合に議員が出ていきますから、そのときに発生する可能性はなきにしもあらずなのです。議決行為になってくるから、その辺、町長として、今担当課長はかからないといっているけれど、そういう技術的なこと、会計法上どうかということをお必ず町長として確認とってきてほしいと思えます。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） まず、やはりその辺はおっしゃるとおり西いぶり広域連合として、本当に今、担当レベルといいますか課長レベルの中ではかからないという話は聞いておりますけれども、やはりその辺の担保をしっかりとっておかなければ、後年に負担がかかると、入って参入したはいけれど、実際にかかるような話になると全然話が違うという話になりますので、それについては、まだ本町は西いぶり広域連合に加入しておりませんので、町長自体は出席ができない状況でございます。それで、登別市長のほうに本町の町長のほうから話しをしまして、そこで登別市長が代表しまして、登別市と白老町の考え方をご説明していただいているというのが実情です。

今、決定ではないのですけれども、今後、町長にも西いぶり広域連合には加入しておりませんが、大事なごみ処理の問題ですので、発言権がないというのは今後の議論をする中で、やはり問題だということで、小笠原登別市長から西いぶり広域連合に提案をしていただいておりますので、オブザーバーという形ですけれども、一緒に入って協議をするというような形で話が動いていきますので、今後の推移をみていきたいというふうに考えております。

○委員長（小西秀延君） 及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） 参考までにお聞きしたいのですけれども、登別市の意向が大きく影響し

てくると思うのです。そういった中で、我がまちの試算された内容が出てきたのだけれど、登別市はどのくらいメリットが出るのか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） 住民説明会でもご説明していますがけれども、登別市は6億円から16億円という幅で、西いぶり広域連合に参加したら負担減になると。本町と逆の結果になります。クリンクルセンターでやった場合204億円かかりますけれども、3つ出しているのですけれども、西いぶり広域連合にいった場合は188億円です。平成42年にクリンクルセンターを建て替えると194億円ということなので6億円差が出ます。今回うちが説明させていただいた平成52年に建て替えると204億円ということなので16億円、一番メリットがあるということですから、いずれにしてもメルトタワーに行った場合の6億円から16億円の負担減になるということで皆様にご説明をされていて、そういう試算が出ているということになります。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 前回の説明の中では、白老町は登別市の意向がかなり大きく影響するということと、私お話ししたとき、まだしばらく先のことだと捉えて聞いていたのですけれども、今何うと来年の1月がリミットなのだと、そういう話を聞いて今年度中の事業なのだと思うと、登別市次第だから、町長として収集経費と財源の関係では登別市長としっかりと方向性をきちっと前もって示して議会のほうへ説明していただければと思っていたのですけれども、今最後のお話を伺って、かなりメリッ的には登別は厳然とあるのだなと。白老だけは何も無い、かえってマイナスなのだということを捉えながら、登別市にはもう頼れないという感じを思いの中でいただいたのです。

メルトタワーになったらしっかりとメリットはあるようにしていきたいという話はあるのですけれども、これは白老町がある程度姿勢をきちんと示していかないと数値的なものは占められないのかなと思ったのですけれども、その辺はどうなのでしょう。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） こちらはやはり、白老町と登別市の協議の中で、現実的に申し上げますと今の状態では白老だけがメリットがないという状態であります。登別市にもはっきりとお話ししていますが、白老だけがメリットはない状態ではいけないということは、登別市も考慮していただいておりますので、そこはメリットを出すような形で先ほどの7市町の協議という話ですけれども、本町の町長が出ているわけではありませんので、あくまでもうちの意向を受けた登別市長が本町の分の主張をしていただいた中で了承いただいております。ただ、7市町にメリットが出るようにということは、これはもう確認済みの話ですので、何もメリットがない、白老だけがメリットがない状況では、間違いなく登別がそれを振り切って行くということはないというふうに今考えております。

ですから、そこは本町としてはしっかりと登別市、西いぶり広域連合と担当レベル、市町長のレベルでそれぞれしかるべき協議を示させていただいて、結論を出していくというところしかもうないのかなと考えております。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 今の状況下では、かなりそちらの方向に方向転換しそうかなと思っている

のですが、町民、財源の関係からもかなり影響のあることですし、ごみ収集の関係からも白老の状況が変わってくると思うのです。方針を決定する状況下になってきたときには、住民説明というのは必要ではないかと。そのときにこの後のごみのあり方も含めて、しっかりといろいろな面での方向性を示していかなければいけないのではないかとと思うのですが、このスケジュールからいくとそのようないとまはないなと思っているのですが、行政としてはどのようにお考えになっていますか。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） おっしゃるとおりスケジュールとしては大変厳しい状況になってございます。この辺は先ほど括弧書きでの6月に方針決定ということと8月ということで、両方併記させていただいてご説明させていただいていますけれども、その決定にいたるプロセスがうまく時間が取れなくて丁寧にご説明する時間がないというようなことになりますと、そこはしっかり登別市とも話をしながら、ちゃんにご説明する時間を取りながら決定していくということも考えなければならないと思っています。

そこは、登別市との関係性がありますので、登別市が決定してしまっただけで本町が後追いという話にはなりませんので、足並みをそろえて連携を取りながら決定をしていくというふうになりますので、あくまで登別市としては6月中の方針を決定するというので、住民説明会等でも説明をされているようですので、そこはそれに合わせた形で白老町もかなり厳しいスケジュールでありますけれども、そこには合わせてしっかり説明できるような形をとっていきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 白老には決定権がないと私は思っているのですが、どちらかといったら町民が反対したから、ではやらないとは言えないという立場にあるのかなと内心思っているのですが、そういうことからいくと、どのようになっても町民が困らないような、メリットをしっかりといただいて、方向性をきちんと示して町民に理解をいただくということが大きなことなのかと捉えて、やるやらないは白老には決定権がないのかなと思いますので、そういう面での町民の理解というのをしっかりと得ていかなければいけないと思いますので、スケジュールに合わせながら町民に説明できるときにはきちんとして、いい方向性に行くように取り組んでいただきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 山本生活環境課長。

○生活環境課長（山本康正君） しっかりとその辺は登別市と連携しながら、西いぶり広域連合と協議をしつつ、住民の方に後々遺恨を残さないような形で、将来にわたっての話になりますので、そこはしっかりと協議をしながら進めさせていただきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） ほかに質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、質疑なしと認めます。

---

### ◎閉会宣言

○委員長（小西秀延君） これで総務文教常任委員会協議会を閉会いたします。お疲れさまでございます。

（午後 4時06分）